

社団法人私立大学情報教育協会  
平成21年度第6回英語学教育FD/IT活用研究委員会（記録）

- I. 日時：平成22年2月18日（木）11:00～13:25
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者： 山本涼一委員長、田中宏明副委員長、北出亮委員、原田康也委員、西納春雄委員、五十嵐義行委員、事務局：井端事務局長、森下、恩田（敬称略）

IV. 資料

- 1. 平成21年度第6回英語学教育FD/IT活用研究委員会次第
- 2. 平成21年度英語学教育FD/IT活用研究委員会名簿
- 3. 平成21年度第5回英語学教育FD/IT活用研究委員会記録
- 4. 英語教育における情報教育（案）（山本委員長作成、資料①）
- 5. 大学における英語教育に必要な情報活用力（案）（田中副委員長作成、資料②）
- 6. 大学における英語教育に必要な情報活用力（案）（山本英一委員作成、資料③）
- 7. CCC 英語教育における情報教育（案）（西納委員作成、資料④）
- 8. 経済学の情報教育（参考として会議中に追加配布）

V. 議事記録

次のような議論を行った。

- 1. 到達目標は最大3つが限界。
- 2. 情報の剽窃が非常に多い。英語圏においても、英語を活用するうえでも、基本的に英語の授業の中で教えておかなければいけない。単なる情報の技術ではなくて、情報に対する心構えとして教えておかないと、技術だけ身につけてもだめである。倫理・情報の接し方として、他分野でも入れている（すべての分野の委員会で共通理解となっている）。⇒これを受けて、到達目標1の最初に「情報倫理の重要性を理解した上で」を入れることとした。
- 3. 到達度は、英語の学士力の到達度ではなく、情報教育の到達度という視点で切ってほしい。英語という学びの中でどうやって学生に情報活用力を持たせるか、英語を学ぶために必要な、学生が持つべき情報活用力は何かをここで打ち出したいのであり、ICTを活用して英語教育を、というのは来年度にやる研究である。

以上を踏まえて、画面に委員長作成の資料①をたたき台として表示しながら、議論して修正を加えていくこととした。その結果、当初3点あった到達目標を改編し、最終的に2点の到達目標に集約することとし、別紙のと通りの最終案を得た。

別紙資料：英語教育の情報教育（最終案）

今後の予定等について事務局から以下の説明があった。

来年度（平成22年度）：

- 1. 学士力を実現するために、IT活用の教育モデルを考えてまとめる。
- 2. 英語の情報教育は、情報教育の新しい委員会に持っていき、形の上では情報教育の委員会でもオーソライズするが、母体はこの委員会で検討する。オーソライズする理由は、分野共通のリテラシー教育・情報倫理教育などの全体のところで共通理解をしておかなければいけないため、および分野別の情報教育間の整合性を取るためである。なお、情報教育（案）は、パブリックコメントを採らせる。したがって、新年度の委員会では、そのパブリックコメントを踏まえて検討をする。パブリックコメントを踏まえた最終版が分野ごとに出揃ったところ

で、分野別の情報教育の冊子体を作る。間に合えば、そこに分野共通のリテラシー教育・情報倫理教育（なお、情報倫理教育はすでにまとまったものがある）を付け加える。そのようにすると、全部が一貫した情報教育という形になる。

平成 23 年度：

分野の情報教育と分野での IT の活用の教育モデルの 2 つを土台にして、教員が持つべき教育力とは何か（たとえば、英語教員が持つべき教育力とは何か）を検討してまとめる。学士力を土台にして教員の教育力を出して、さらにそのなかで IT 関係の教育力としてどこまで持たなければいけないのかを描き、できればティーチング・ポートフォリオのようなアウトカムが出せないかと考えている。

平成 24 年度：

以上のようにやっていくと、学士力、教育力、教育のモデルがあって、最後は点検・評価するためのティーチング・ポートフォリオがあるという形になる。そこで、24 年度には、それを報告書の形で体系的に編集・紹介をしていく。今までにない、かなり体系的なものが出て来る。なお、局長のほうでは、色々体系的に出てきたものを、大学のガバナンスとして理事会サイドで一体どういうことを考えていかなければならないかというところを掘り下げて書く。そうすると、理事会でやること、教授会サイドで検討すること、教員自身がやることが一通りできるようになる。そういう提言を私情協として随時出していく。そしてそれにパブリックコメントを求めて、直していきたい。作ったらそれで終わりではなくて、日常化していきたい。そして 5 年後を目途にまた直していきたい。

ということで、スタートラインについたわけである。

## 英語教育の情報教育(案)

### 到達目標 1

情報倫理の重要性を理解した上で、英語学習に必要な情報通信技術を身につける。

### 到達度

- ① 表現の検索、文献・資料の収集・理解に情報通信技術を利用できる。
- ② 文の作成、編集、翻訳などに情報通信技術を利用できる。
- ③ 音声・画像データなどを通じて効果的に交信するために、情報通信技術を利用できる。
- ④ 剽窃、盗用、発信・表現による文化摩擦などに配慮して情報通信技術を利用できる。

### 教育内容・教育方法

①～④は、検索・文章作成・通信ツールなどを教え、演習などの授業を通じて情報倫理に配慮した情報の収集・整理、文章作成、交信などを指導し、体験させる。

### 到達度確認の測定手段

①～④は、学習支援システムを利用し、自己評価、他者評価、小テストなどにより確認する。

### 到達目標 2

総合的なコミュニケーションに必要な情報通信技術を身につける。

### 到達度

- ① 相手と効果的な英文交信を行うために情報通信技術を利用できる。
- ② 複数の相手と協働して交渉・意見交換するために情報通信技術を利用できる。

### 教育内容・教育方法

①～②は、電子メール、テレビ会議、学習支援システム、電子掲示板などの使い方を教え、演習を通じて、英語による交信や交渉・意見交換を体験させる。

### 到達度確認の測定手段

①～②は、情報支援システムを利用し、他者評価、学習ポートフォリオ、小テストにより確認する。